

島根県の地震

令和3（2021）年1月

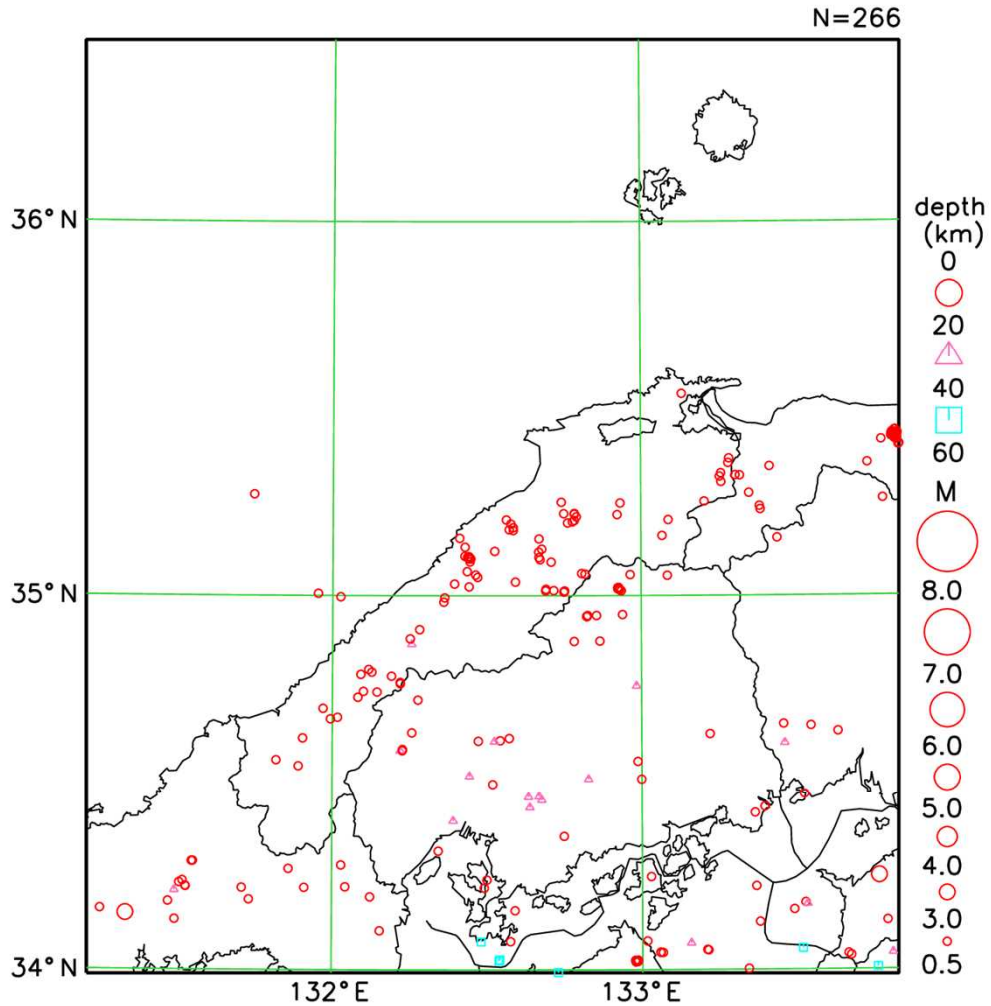
・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値です。後日、再調査のうえ修正されることがあります。

・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用しています。

松江地方気象台

島根県およびその周辺地域の地震活動 2021年1月1日～31日

2021 01 01 00:00 -- 2021 01 31 24:00

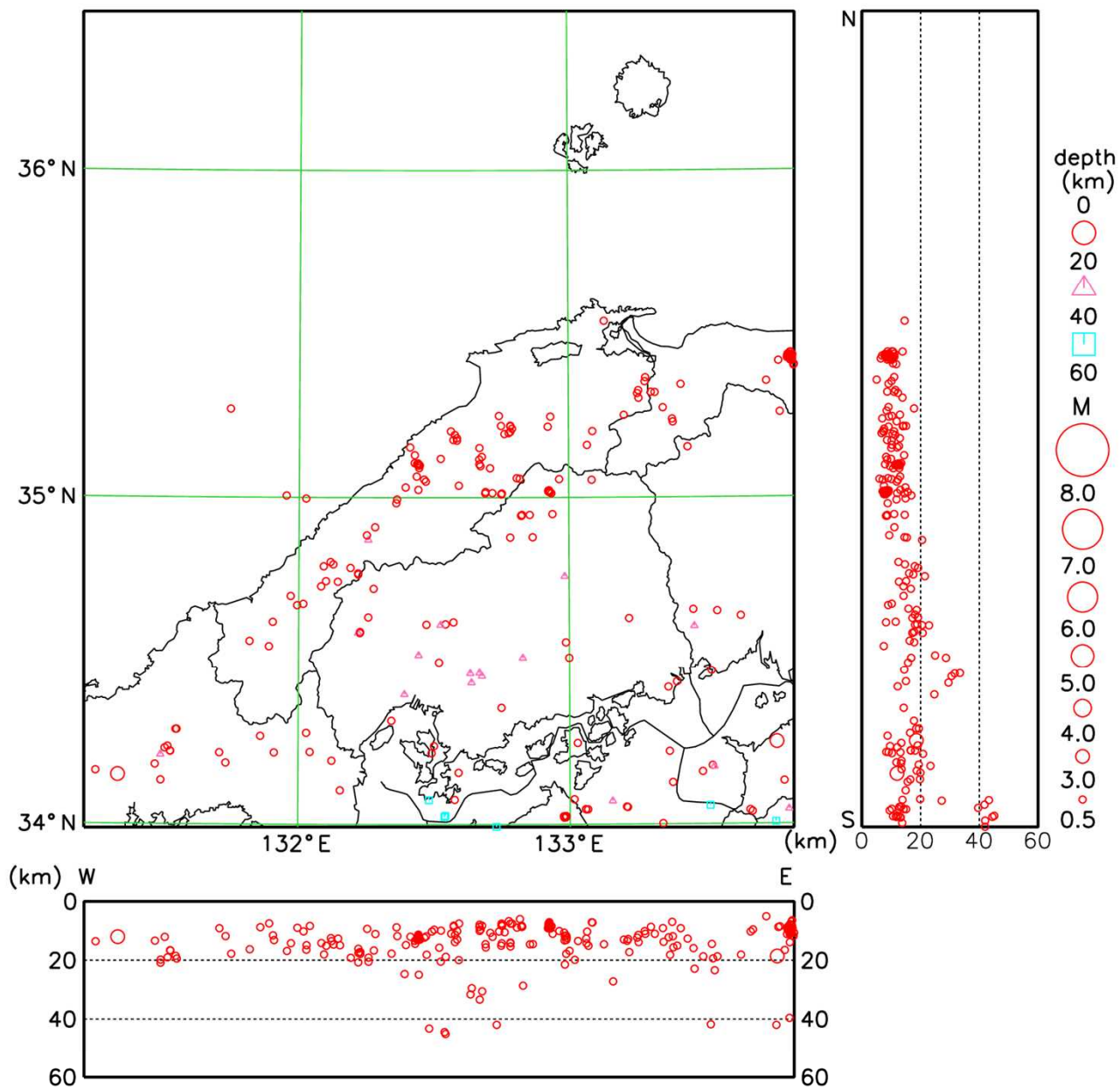


[概況]

今期間、M0.5以上を観測した地震は266回（12月は212回）でした。
また、島根県内で震度1以上を観測した地震は、ありませんでした。

[断面図]

2021 01 01 00:00 -- 2021 01 31 24:00



震度観測とその利用

震度とは、地震による揺れの強さを総合的に表す指標です。防災対応の基準として利用されています。

震度データは、地震防災上不可欠なものです

気象庁が発表する震度は、気象庁、地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所が全国各地に設置した震度観測点*で観測した震度です。これらは、テレビ等で報道されるとともに国や地方公共団体等の多くの防災機関で利用され、地震災害が発生した際の被害の推定や、迅速かつ適切な初動体制・広域応援体制の確立など、地震防災上不可欠なものとなっています。

震度は近い場所でも異なることがあります

気象庁が発表している震度は、原則として地表や低層建物の一階に設置した震度計による観測値です。地震による揺れは、地盤や地形に大きく影響されます。震度は震度計が置かれている地点での観測値であり、同じ市町村であっても場所によって震度が異なることがあります。また、中高層建物の上層階では一般に地表より揺れが強くなるなど、同じ建物の中でも、階や場所によって揺れの強さが異なります。

日頃の備えをお願いします

日本は地震国です。図のような強い揺れを伴う地震がいつ発生してもおかしくありません。家具の固定など日頃からの地震への備えを心がけてください。



図 気象庁リーフレット「その震度どんなゆれ？」より抜粋
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/kaikyuhyo/kaikyuhyo.pdf>

※ 震度観測点について 気象庁 HP
<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/intens-st/index.html>